

会議の概要

令和3年度 第9回 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼

- | | |
|----------------|----------------|
| ○ 大山幼稚園学校運営協議会 | ○ 玉井幼稚園学校運営協議会 |
| ○ 大山小学校学校運営協議会 | ○ 玉井小学校学校運営協議会 |
| ○ 大玉中学校学校運営協議会 | |

日 時：令和4年3月9日（水）18:30～20:30

場 所：改善センター1階 多目的ホール

（進行 指導主事 斎藤一範）

1 開会のことば

（おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都）

皆さんこんばんは。今年度最後となりました。これより令和3年度第9回コミュニティ・スクール（以下CSと表記）委員会を始めます。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ

（大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- 改めましておぼんでございます。本年度も皆さまには大変お世話になりました。この1年を振り返りますと様々なことがありました。今年も昨年に引き続きコロナ感染拡大防止のために、その都度協議しながら進めてまいりました。実施に当たっては、様々なご意見をいただき、学校の教育活動を無事終了することができました。御礼申し上げます。3月11日には中学校の卒業式、18日には幼稚園の卒園式、23日には小学校の卒業式を予定しており、現在各校園では本番に向けた練習や準備を行っているところです。
- 本村のコロナの感染者が先日100人を超えました。1日に複数人が出ることもあり、幼稚園、小・中学校の子どもたちも関わっているものもあります。今回の特徴は、家庭内感染のケースが多くあって、小さな子どもの感染が増えていることです。今日の午前中に貝ノ瀬先生（全国CS連絡協議会会長、東京都三鷹市教育長）と電話で話したのですが、東京都でもその兆候が顕著になっているということです。
- 学校で子どもたちが感染した時に拡大をどう防ぐかということが教育委員会の大きな仕事です。校長先生や副園長先生ともいろいろと協議を重ねてきました。小学校、中学校の修学旅行の変更もありましたが無事実施できました。私が一番残念だったのが、おおたま・オータム・フェスタができなかったことと、最後のおおたまコミュニティ広場をYouTubeでの動画配信という形で行ったことです。話し合い（フリートーク）ができなかったことが残念に感じました。事後のアンケートでたくさんのご意見をいただきましたので、それらを集約してお返ししたいと思います。とにかく、このようなコロナの状況にもめげずに実施できたことは、会長さんを始め委員の皆様の力です。感謝申し上げます。
- 今日はこの場をお借りしてもう一つ御礼申し上げます。私は、平成25年6月11日から大玉村にお世話になってきました。3期8年と10ヶ月（1期目は前任者の残期間、2期目3年、3期目3年）務めてまいりましたが、今期を限りに退任することになりました。振り返ってみますと、CSということで村の教育を進めてきたことが私の一番の思い出です。資料『令和3年度東北六県市町村教育委員会連合会 論集』をご覧ください。小さいスケールメリットを活かし「地域とともに歩む学校」をつくる～「おおたま学園コミュニティ・スクール」を核に～という題で書かせていただきました。

（概要は次項の通り）



① 大玉の教育の特色を表す3つのキーワード

- ・縦軸の広がり＝幼・小・中の一貫体制
- ・横軸の広がり＝CSや地域学校協働本部による地域ぐるみの支援体制
- ・学びの還元と循環＝学校教育と社会教育の融合

② おおたま学園CS構想

- CS委員の意見を聴きながら改善を図ってきた。
- 一貫的教育によって、学校と幼稚園の相互交流を実施できた。
- 「おおたま・オータム・フェスタ」は、縦軸と横軸の融合した代表的な行事だった。
- CS委員と学校関係者評価委員の兼務によって、各校及び村全体の教育の充実につながった。

③ 縦軸の拡充～幼稚園3年保育の開始と幼小連携強化

今幼児教育の充実が叫ばれている。聞き慣れない言葉であると思うが、近年幼児教育の重要性が「ペリー就学前計画」等各種データ・論文で明らかにされている。これは遙か昔の昭和37年にアメリカミシガン州のペリー幼稚園という所で始めた実験によると（日本ではできないと思うが）、所得層の低いところにおいて、幼児教育を受けた子と受けなかった子どもの成長を追跡したところ、学歴、所得、犯罪発生率等で大きな違いが生じたという結果になったということである。著名な経済学者（ジェームズ・ヘックマン氏 ＊シカゴ大学、ノーベル賞受賞）は、「幼児期に1ドル投資すると、それが7ドル以上になってかえってくる」という説を唱えている。大玉においても、非認知能力を伸ばそうとしているわけだが、それが教育の充実につながっていると考える。

④ 横軸の拡充～地域学校協働本部の設置

本部に地域コーディネーター、各学校に地域連携担当教職員を任命し、相互に連携しながら、地域との連携・協働活動を発展させてきた。CSと地域学校協働活動の連携が本村の横軸を更に強固にする。

- 「いい村はいい学校を育てる」「いい学校はいい村をつくる」という言葉があります。皆さんの力で地域と共に歩むことがその実現につながっていくと確信しています。来年度以降もCSを中心に地域学校協働本部と共に大玉の教育を推進し、力強く歩んでいっていただきたいと思います。約9年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ

（CS委員会会長 伊藤 和弥）

- みなさん、おぼんでございます。前回の第8回委員会後からコロナも大分酷くなってしまう、学校関係者評価、コミュニティ広場が予定通り開催できませんでした。学校関係者評価については書面による報告ということで対応されたと思うのですが、コミュニティ広場はYouTube配信という形でした。ただ、中止になったということではなく、前年の経験を生かして最低限のことはできたと思っています。また、今回は第9回CS委員会ということで、最後の各学校園の経営・運営の方針の承認という大切な役割があります。
- 今日は、今年の活動から来年の計画まで出されていますので、皆さんでじっくりとお話を聞きながら、質問等あれば出していただく等活発な意見交換をしていただきたいと思います。今日は時間の関係で熟議は予定されておらず若干残念ではありますが、最後ということもありますのでよろしくお願いたします。



4 諸連絡 本日の日程・内容について

(事務局 指導主事 斎藤 一範)

< 4つの協議内容について >

(1) 令和4年度各校園の経営・運営の方針等について

まず、各校園の評価委員長から学校関係者評価委員会の内容について4分程度で説明いただく。それを踏まえて、各校長・副園長から来年度の説明をお願いしたい。特に、来年度重点的に取り組むことや学校関係者評価の結果をもとに来年度改善すること、重点化していくこと等を中心に、5分程度で説明いただければと思う。その後、意見交換、承認ということで10分程確保している。

(2) 令和3年度おおたま学園CS委員会の運営について

今年度の反省、来年度の計画について説明する。それを踏まえて意見交換という形で進める。

(3) 第3回おおたまコミュニティ広場アンケート結果から

(4) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】について

5 協議

(座長 CS委員会副会長 矢吹 吉信)

(1) 令和3年度各校園の経営・運営の方針等について

① 学校関係者評価委員会について(学校関係者評価委員長より)

【大玉中学校】

(CS委員 浅和 博栄)

○ 重点目標の評価について(下記ア～オについて)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ア 学校経営の基本方針【全教職員による協働的・組織的な取組】

○ コロナ禍による影響もあるかと思うが、「校務分掌の積極的な推進の数値が低い」とあることから、チーム大玉として組織的な協働体制構築に期待する。

○ 校内研修の研究物の県表彰受賞は名誉なことと素晴らしい。先生方のスキルアップや自信にもつながる。子どもたちの成績にも直結することであり、高評価にもつながっている。

イ 共栄：認め合い高め合う生徒【生徒とのふれあいを大切にした豊かな心や創造性の育成(德育)】

○ 昨年度に続くコロナ禍で、先生方の苦労は大変だったと思われる。未実施の活動があったことは残念なことだが、活動内容や手法等について、学校単位での負担軽減からも関係機関や組織等から協力を得ることを検討してもよい。

ウ 自学：意欲をもって学ぶ生徒【生徒主体の授業を展開した確かな学力の向上(知育)】

○ 「自主的・意欲的について」は子どもたちと保護者にズレがある。アンケートの質問内容も時間的・内容的なものも含め意味が広くとられることから、もう少し質問の内容を細かく設定した方がよいのではないだろうか。

○ コロナ禍により、オンラインの有効性なども考えられることから、授業内でのタブレットの活用方法や工夫に期待する。

エ 自鍛：自ら心身を鍛える生徒【きめ細かな心配りによる健康の保持増進と体力の向上(体育)】

○ 健全な精神は健全な肉体に宿ることから、実態に応じた体力づくりプログラムに期待する。

オ 地域と共に歩む学校づくり【社会に開かれた教育課程の実現と共に歩む学校づくりの推進】

○ 引き続き感染対策等を徹底した上で、様々な工夫をしながら取り組んでいくことを期待する。また、地域・おおたま学園・PTA・CS委員会の連携・協力体制がとれる取組や活動を推進していきたい。

○ お便り等随時発行されており、学校での行事等を把握できる連絡メールも適宜発信されていると思われる。ホームページのアクセス数等も参考にしながら、スピーディな更新作業が望ましい。

○ 幼・小・中一貫として求められるものの一つに、「習慣」がある。「習慣」は小さい時からの毎日の積み重ねであり、習慣化が必要なことを整理して重点的に取組を強化し定着することが、おおたま学園たる所以でもあるかと考える。

< 全体意見として >

○ 全体的に学校として評価している内容と、評価委員による評価の差異はあまり感じられない。



また、生徒や保護者、先生方の評価も高く、先生方の熱心な指導を始め多くの保護者や地域の方々の協力をいただきながら、子どもたちの健やかな成長と学力の向上、そして健康な体のために全力で取り組んでいることが感じられる。

- おおたま学園としての幼・小・中一貫の目的として、望ましい生活習慣や学習習慣の確立等、課題を共有しながら同じ方向性で進んでいく必要性も感じられたことから、改善・検討もするべきと考える。

【大山小学校】

(CS委員 小椋 伍)

- 重点目標の評価について

3つの重点目標としてあげられている下記の項目の達成状況、及び取り組みの適切さについていずれもAとした。詳しくは評価報告書をご覧ください。

- ◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ア 進んで学習する子の育成（「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり、学びを支える学習基盤づくり）

イ なかよく助け合う子の育成（道徳教育充実、生徒指導の充実、体験活動の充実）

ウ 健やかでたくましい子の育成（やり抜く心の育成、健康・安全教育の充実）

- この1年間、コロナのためイベントや行事等やり方を変えて工夫して行う等本当に先生方は大変だったのではないかと思います。

< 全体意見として >

- 大山小学校の児童は素直でよい。あいさつや礼儀等人間として常識的なことをきちんと教えていけば将来につながると思う。コロナ禍で行事の縮小、中止になったイベントがあっただけそうだった。体育館での映画の上映を行う等、イベントを増やして子どもたちの楽しみを増やす取組もよいのではないかな。
- コロナ禍であり、いろいろな行事の変更や中止もあったが、学校として子どもたちのためにできることや様々な体験の機会を設けていただいたことに感謝したい。先生方も少ないぎりぎりの人数で子どもたちの対応をすることは大変だと思う。何もトラブルのない日等ない毎日だと思うが、少しでも子どもたちのためになるようにという雰囲気を感じる。応援したい。
- コロナ禍の異常な状況が続く中で、先生方は校長先生の指導の下しっかりと課題解決に取り組んでいる。これからも大山小学校の子ども全体を教職員全体で受け止め、一人一人の子どもに寄り添った指導をお願いしたい。
- 来年度もコロナの状況は続くと思われる。児童が安心してできるような内容・方法を工夫しながら協力していきたい。



【玉井小学校】

(CS委員 武田 智道)

- 重点目標の評価について（下記ア～ウについて）

- ◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ア 自ら学ぶ子ども（主体的に学び、学んだことを活用できる子ども）

- 「話すこと」を取り入れた授業をオープンスクール等で参観することができた。
- コロナ禍により、一人1台のタブレットが急速に導入され、授業で活用されていることは評価される。タブレットの活用の仕方を教職員同士で研修会を行うなど意欲的である。情報モラルに関して引き続き指導をお願いしたい。

イ 心豊かな子ども（自分や人、ふるさとを大切にできる子ども）

- 「心のものさし」の活用や自分の考えを書かせ、話し合い、友達の考えを聞き合うような道徳の授業をしていることは素晴らしい。自分のこと、友だちのことを分かっている児童が多く、教職員の授業に対する意識の変化も見られる。

ウ たくましい子ども（自分や人、ふるさとを大切にできる子ども）

- コロナ禍の状況の中、「業間」「昼休み」を活用して身体を動かす時間を工夫している。
- 全国と比較すると、福島県は運動能力が低く、肥満体型が多いというデータもあることから、引き続き「運動身体プログラム」等を活用した指導をお願いしたい。

<全体意見として>

- コロナ禍の中、子どもたちの授業、行事等が実施できるよう対策を講じていただいていることに感謝している。主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善が図られていると感じた。



【 大山幼稚園 】

（CS委員 佐原 弘美）

- 重点目標の評価について（下記ア～ウについて）

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ア 進んで遊ぶ子ども（自ら進んで意欲的に学ぶ子の育成）

- 新しい生活様式に伴い、幼稚園の行事も先生方の工夫により十分配慮されて行われた。子どもたちがいろいろな遊び等を考え遊ぶ様子が見られた。
- 興味・関心をもったことを先生に聞いてもらいたいという様子や、先生や友だちに話したり伝えたりしている様子等も見られた。

イ なかよく遊ぶ子（身近な人とかわらうとする子の育成）

- 先生方の工夫により、園児は感受性豊かに生活し、人との関わり方を学べた。
- トラブルや葛藤体験や決まり事の大切さを、幼稚園という集団活動の中から学ぶことは重要。
- 今後も異学年や地域の人との交流活動や自然体験等の機会を増やし、直接体験の場を充実させる必要がある。
- 参観の際、子どもたちがオープンに気さくに声をかけてくれたのが印象的だった。普段から先生や友だちに親しみを持って生活しているためであると感じた。

ウ 元気に遊ぶ子（心も体も健康な子の育成）

- 遊びの中に「幼児期運動指針」をうまく取り入れ、運動に親しめるようにしている。
- 参観の際に見たサーキット遊びは、何種類かある道具をクリアしようとうまくいかなかったところを少しずつ修正しながら何度もトライしていて、最後まであきらめない心の育成にもつながっていると感じた。
- 何事に対してもその子に合ったスモールステップを示し、意欲につなげていく関わりはとてもよい。



< 全体意見として >

- コロナ禍により様々な課題（感染対策をしながらの保育。マスク着用で表情が分からず、相手の気持ちを理解しづらいこと。）が生じたが、教職員が一体となり昨年度の経験を活かし保育にあたっていたのが素晴らしい。
- 教職員間の情報の共有がなされ、園児一人一人をみんなで育てようとする家庭的な雰囲気が見られた。引き続き、コロナ禍で活動に制限がある中でも、試行錯誤して子どもたちに楽しい幼稚園生活を送ってもらいたい。

【玉井幼稚園】

(CS委員 今野 裕三)

○ 重点目標の評価について

3つの重点目標としてあげられている下記の項目の達成状況、及び取り組みの適切さについていずれもAとした。詳しくは評価報告書をご覧ください。

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ア 自分で考え、進んで行動できる子ども

イ 友達と仲良くできる子ども

ウ 目標に向かって挑戦できる子ども

○ 実際に幼稚園に伺い活動の様子を見せていただいた。3歳児がいるということで、以前と雰囲気も大分変わった。紙おむつを保管する場所があり、排泄の習慣が身につけていない3歳児もいる。それでも、年度初めの違う個々のスタートから1年経つと、排泄の習慣もしっかりと確立して対応の必要はなくなるというお話をお聞きして、「子どもの成長はすごいんだ」という感情を持った。

< 全体意見として >

○ 我々や保護者は子どもに対して指示を出したり、あるいはお膳立てをしたり、ルールを敷いたり等して、「その通りに進んでいってくればいい」という思いが強い。しかし、幼稚園の先生方は、そうではなくて、子ども自身が小さいなりに自分で考え、判断をして、人間関係を築いたり、人格を形成したりしていく過程を大事にして日々接してくれている。とても大事な時期なのだが、そういう先生方に見守られながら幼稚園生活を送っている子どもたちは本当に幸せだと思う。これからもいろんな面で大変だと思うが、先生方の工夫で、少しでも子どもたちにとってプラスになるような幼稚園教育を行っていただければと思う。



○ 我々地域の人間が幼稚園の教育を支えていかなければならないと改めて思った。今回こういう評価委員という貴重な経験をさせていただいたことに感謝したい。

(座 長) 各校園の評価委員長さん本当にありがとうございました。何か質問等がありますか。

先ほどの教育長さんのお話にもありましたように、学校評価は学校力を高める上で重要な役割を担っているということです。来年度も1年間しっかりと学校を見て、しっかりと評価したいと感じました。皆さんお疲れ様でした。

それでは、続いて令和4年度各校園の経営・運営の方針説明に移りたいと思います。大玉中学校よりお願いします。

② 令和4年度各校園の経営・運営の方針説明(各校・園より)

【資料：各校・園 令和4年度学校運営の方針(学校運営ビジョン)】

【大玉中学校】

(校長 安田 浩明)

○ 学校経営の基本姿勢と目指す学校像について

- ・ 生徒も教師も誇りをもてる学校 → 「大玉プライド」
- ・ 保護者や地域から応援され、共に歩む学校 → 「地域貢献」
- ・ 学び続ける教師がいる学校 → 「虹のような学校組織」

虹のように先生方も個性を持っている。それが調和し、生徒から見上げられる(尊敬される)ような学校組織になる。

「大玉プライド」から「大玉ブランド」へ

< 重点事項について >

『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力の向上を図る』【知育】

○ 質の高い学びを実現する授業の創造

- ・ 授業の充実
- ・ 校内研修の充実
- ・ ICTの効果的な活用

- “授業”と“家庭学習”の学習サイクルの確立（自己マネジメント力の育成）

- ・読書活動の推進

- 体験的学習・交流学习を取り入れた授業の推進

「地域や社会とつなぎ、多様な人々との心の交流を通して、豊かな人間性や社会性を育む」【徳育】

- 地域に学び、地域と学ぶ、多様な学習活動の推進

- ・総合的な学習の時間の充実（SDGsと関連付けた国際理解教育の視点から）

- “大玉プライド”の意識化を通じた自己有用感の向上

- ・Q Uを活用した学級づくり

- 自他のよさを認め合う人権教育・道徳教育の推進

「健康的な生活習慣の確立に向けた健康マネジメント力の育成と体力向上に取り組む」【体育】

- 基本的生活習慣の確立に向けた家庭への啓発・連携強化

- ・学校評価の中でも低い評価であったので、家庭との連携を強化しながら、「早寝・早起き・朝ご飯」「メディアコントロール」「各種健康教育」等を推進していく。

- 新体力テスト結果に基づく体力づくりプログラムの推進

- ・継続し充実させていく。

- 主体的に考え判断し、行動できる防災教育・安全教育の実践

- ・避難訓練にさらに一工夫を加える。

- ・出前講座の活動

【社会に開かれた教育課程を実現し、地域と共に歩む学校づくりに努める】について

- 幼・小・中連携、おおたま学園の取り組みを生かした一貫性のある教育の推進

- 家庭・地域社会・CS委員会・地域学校協働本部・関係機関との連携強化



【大山小学校】

（校長 舘脇 一弘）

- 学校関係者評価の中に、「コロナ禍であるのでその対応にしっかりと取り組むこと」という内容があった。それをもとに、ビジョンに「新型コロナウイルス感染症対策を講じながら。全教育活動を通して“基本的・汎用的能力”“非認知能力”の育成」を入れ、すべての面で力を入れていく。

＜重点事項について＞

「進んで学習する子」～自ら考えともに学び育つ子どもを育てる～

- 今まで課題であった読書活動がよい傾向になってきた。読書の冊数も増えた（一人あたり2冊）が、次年度も外せない項目である。

- 「授業の準備がよくなされている」という評価をいただいたが、今回オープンスクールも含めて、ご指導の中でまとめと振り返りの場を充実させることで学力は向上するというお話をいただいたので重点に加えた。学習することの楽しさを味わわせられるよう子どもたちの主体的で深い学びのある授業実践に取り組む。

「なかよく助け合う子」～進んで「ひと・もの・こと」に関わりながら互いの人権を尊重する心を育てる～

- Q Uテストの結果を効果的に活用し、学級経営交流会を行う。

「健やかでたくましい子」～健康で安全な生活ができるようたくましい心身を育てる～

- 肥満傾向の子の対策として、運動身体づくりプログラム、体力テストの結果、自分手帳の活用等を通して克服していきたい。



【玉井小学校】

(校長 小林 雄)

- 本校は、本村の特色であるこのCS、地域学校協働活動、おおたま学園の取り組みを十分に生かしながら取り組んでいきたいと考えている。
- 本校の伝統である「自分と自分たちマネジメント力(RPDCAサイクル)の育成」を大切にしていきたい。その中で、“人に左右されない自分の考え”“失敗や困難を経験しながらの挑戦”“学び合う仲間の存在”を意識しながら協働して取り組む。そして、自分たちの成長を振り返りながら“次に生かす・自分や自分たちの成長”を感じ取らせるようにしたい。



<重点事項について>

「自ら学ぶ子ども」

- 情報活用能力(ICT)について学校評価委員から指摘があった。ICTと図書館環境を大切にしていきたい。

「心豊かな子ども」

- 今まで通り道徳教育の充実、学級経営・学校経営を含めた特別支援教育の充実、そして生徒指導の充実をあげた。読書活動については、学力だけでなく、心の育成にもつながるような取り組みをしていきたい。

「たくましい子ども」

- 日頃の授業もそうなのだが、子どもたちに自己管理能力(健康マネジメント力)を身につけさせたい。
- 安全教育、防災教育に継続的に取り組んでいきたい。

【大山幼稚園】

(副園長 二瓶 博子)

- 教育目標は大山小学校と同様で『めざせ！夢に向かってがんばる子～地域と共に、自らの夢に向かって努力し、未来を拓く子どもの育成～』であり、重点目標も今年度と変わりはない。
- 今年度は、コロナ禍の新しい生活様式にも順応し、幼児の距離感をうまくつかみながら環境構成を工夫することで、本来の楽しい保育現場が戻ってきたように感じた。しかし、行事の縮小や全園児での行事ができなかったことで、保護者同士の交流の場所について課題も見られたので令和4年度は工夫していく。

<重点事項について>

「自ら進んで意欲的に遊ぶ子の育成」

- 試行錯誤する過程では、本年度の重点事項でもある遊びのコーディネート意識して、職員間でカンファレンスを行いながら進めてきた。好きな遊びの時間を細切れにせず、幼児が試行錯誤し好きな遊びに集中・熱中できる時間を十分にとれるようにカリキュラムや行事を見直していきたいと考えている。
- “興味・関心をもって聞く・話す・伝え合う活動の充実”では、保護者・教師と共に幼児が自分なりの言葉で話す・伝え合う部分に弱さを感じている。言葉に関しては、年長組では「わくわく Thinkinng タイム」を年間計画に位置づけ、非認知能力の獲得とたくさんさんの言葉を獲得するトレーニングの場ということで、時と場に応じた受け答えを子どもたち自身ができるようにしたい。



「身近な人とかわろうとする子の育成」

- 特にあいさつに関しては、年長組によるあいさつ運動を実施してきた。学校評価の中でも、「幼児自らがあいさつすることはなかなか難しい。しかし、こちらからあいさつをすれば、子どもたちは気持ちよく返すことができる。」とのご意見をいただいた。こうした子どもたち

の実態を踏まえて、最終的に相手に親しみをもって気持ちよくあいさつを交わすことが人との関わりにつながると考え、「幼児が自ら」ではなく「親しみをもってあいさつを交わすことができる雰囲気作り」に変更した。

- 3年保育の強みは、異学年交流が園内で気軽にできることである。小学校との連携、学校支援ボランティアさんによる支援、地域の果樹園での直接体験や畑での活動等大変恵まれた環境を生かしつつ、さらに地域の田んぼコースの充実にも力を入れていくことで、地域に園児たちの様子を知らせていきたいと考えている。

「心も体も健康な子の育成」

- 3歳児では体だけでなく心の育成も考え、令和4年度は「幼稚園に親しみをもち元気いっぱい活動する」という目標に変更した。
- 自分たちで育てた野菜を自分たちで味噌汁やおやつにして食べたことは、苦手な野菜をおいしく食べるきっかけになった。来年度も工夫しながら取り組んでいきたい。
- 保護者が特に悩んでいる食育について
 - ・おたよりの発行やポータルサイト、園だより等を効果的に活用していきたいと考えている。
- 危険回避能力について
 - ・初めからすべて安全にしてしまうことは、幼児自身が自分で考える力をなくしてしまうことにつながると考えられる。「危険だから」と行動をすべて制限するのではなくて、いろいろやってみて考えさせて、幼児自身が獲得していくことも大事であるので、危険のない範囲で伸び伸びと行動させながら身につけていきたい。

【玉井幼稚園】

(副園長 後藤 弥和子)

- 教育目標は玉井小学校と同じで『自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども』で、教育目標に向かって幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を念頭に「自ら考える子ども」、「心豊かな子ども」、「たくましい子ども」の3点をあげている。

<重点目標について>

「自ら考える子ども」

- 主体的に活動する意欲の育成
 - ・発達には個人差があり、その子なりの成長を認め大切にしていきたいと考え変更した。 → 一人一人の成長を認め、個に応じた支援の充実
- 遊びを創造しようとする意欲の育成
 - ・村の重点事項でもある「主体的な遊びや活動を通して考えたり分かたりすることの楽しさや喜びを十分に体験させる」ために、幼児の興味・関心を探り、活動を自ら創り出していく中で、「見つける」「比べる」「例える」「試す」「工夫する」ことができるようにしていきたい。
 - ・絵本や物語に親しむ環境を工夫するとともに、家庭における絵本や読み聞かせの啓蒙に努めたい。本年度はコロナ禍ということもあって絵本の貸出はできなかった。苦渋の判断でそのようにしてきたので、来年度は工夫しながらやっていきたいと考えている。
 - ・自分の気持ちをきちんと主張し、友だちとたくさん言葉を交わし合う体験を充実していくために、興味・関心を持って聞く・話す活動を充実させていきたいと考えている。その中で言葉による振り返り・伝え合いの場の工夫をし、「わくわく Thinkinng タイム」を指導計画に位置づけて、道徳性・規範意識・思考力の芽生え・非認知能力の育成に努めていきたい。



「心豊かな子ども」

- 思いやりの心の育成
 - ・昨年度より一歩進み、「友達と生活する楽しさを味わう」から「友達と協力して活動することの楽しさを味わわせる支援の工夫」とした。友達と協力していろいろな活動をする中で、相手を思いやったり葛藤体験をしたりすることができるようにしていく。
 - ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、豊かな体験活動ができるように来年度も工夫していきたいと考えている。
- 豊かな体験活動の充実

「たくましい子ども」

- 自ら身体を動かして遊ぼうとする意欲の育成
 - ・中には遊んでいても疲れやすい幼児も見受けられるので、密を避けるためにも園庭と新校

庭の2カ所に分かれ、戸外で十分に体を動かして遊べるような工夫をこれからもしていきたい。

・「幼児期運動指針」を意識した遊びを工夫し、その中で最後まで諦めないで活動をやり遂げる心の育成に努めていきたい。

○ 健康で安全な生活をする力の育成

・学校評価委員のご意見にもあったように、メディアにふれる時間を規制するだけでなく、いかに活用すべきかという視点に立ち、それから基本的生活習慣の確立とともに家庭と連携しながら今後進めていきたい。

③ 意見交換 → 承認

(座 長) ありがとうございます。各校園より只今経営・運営ビジョンの説明がありましたが、何か質問、意見等があったをお願いします。

(伊藤会長) 大玉中学校で「地域と共に歩む学校づくり」についての重点目標が設定されているわけですが、内容的に評価にそぐわないものもあって見直さなければならないという説明もありましたが、ぜひとも「地域と共に歩む学校づくり」の実現に向けてチャレンジしていただきたいと思いました。「地域と共に～をしている」という視点があってもいいと思いますのでご検討いただきたいと思います。(要望)

(座 長) 他になれば承認手続きに移ります。承認いただける方は拍手をお願いします。

<拍手多数>

(座 長) 承認ありがとうございます。それでは、ここで3分間休憩します。

～ 休 憩 ～

(2) 令和4度おおたま学園CS委員会の運営について (事務局 指導主事 斎藤 一範)

① 令和3年度おおたま学園CS委員会を振り返って

○ 資料に基づき説明…主なものだけ下記に列挙

<成果>

- ・テーマを設けて取り組んだ熟議の中で、学校園運営に参考となる貴重な意見が出された。
- ・教職員のCS委員会及び委員の方々への理解・思いが強くなった。
- ・CS活動は、子どもの郷土愛を育てることにつながっている。
- ・オープンスクールに参加して、現在の教育現場の実態を知ることができた。(ICT等)
- ・オープンスクール後の学校運営協議会に先生方が多数出席してくれたことで、いつも以上に熱い熟議がなされた。

<課題>

- ・CS委員会として、地域学校協働本部との連携・協働した教育活動の推進が今以上に必要。
- ・他のCSを学ぶ機会が欲しい。
- ・広く保護者や地域住民に関わりや関心を持ってもらうための方策を講じる。
- ・課題に取り組むプロジェクトチームを立ち上げ、解決に向けて取り組む必要性
- ・子どもたちとCS委員が話し合う機会の設定

② 基本方針(案)年間計画(案)の説明

- 地域学校協働本部と連携・協働した教育活動を推進し、地域と共に歩む学校の実現、地域コミュニティの活性化等を目指す。
- CS委員会における熟議においては、各校園の経営計画や現状、課題等を共有する機会を設け、学校・家庭・地域が一体となった特色ある教育活動を充実させるための取組を検討する。
- オープンスクール(おおたま学園主催の授業研究会)に、CS委員の皆様も参加し、各校園の学校運営協議会をその当日夕方に行う。このことにより、子ども理解・学校理解のより一層の深まりとともに、それらに基づいた協議の活性化を目指す。
- 学校関係者評価を実施し、学校経営・運営の改善のサイクルが有効に機能するようにする。
- 第4回おおたまコミュニティ広場(第14回大玉村教育フォーラム)は、保護者、村民の方々が年に1回集い、教育・子育てについて語り合う場として実施する。その際、保護者、村民ができ

るだけ多く参加できるよう、呼びかけ・周知を図る。

なお、内容・方法については、ＣＳ委員会において協議する。限られた時間で協議が深まるよう運営方法を工夫する。

- 学校が主体となって企画するおおたま・オートム・フェスタ（第４回）の運営に参画し、ねらいの達成に寄与する。
- 保護者・地域・住民の参画を促すための情報発信の方法を検討し、工夫を図る。

令和３年度の活動実績と令和４年度の計画（案）

令和３年度（実績）			令和４年度（案）
月	日	会議・主な活動	会議・主な活動
4	28	第１回役員会 ・第１回ＣＳ委員会運営・内容等検討	
5	11	第１回ＣＳ委員会 ・委員任命・学校関係者評価委員委嘱 ・年間計画（ＣＳ委員会運営・内容等） ・地域学校協働活動について ～小グループによる熟議～ ・各校園が重点的に取り組むこと、お願いしたいこと	5/12（木）第１回ＣＳ委員会 ・年間計画（ＣＳ委員会運営・内容等） ・地域学校協働活動について ～小グループによる熟議～ ・各校園が重点的に取り組むこと、お願いしたいこと
6	25	第２回ＣＳ委員会（玉井幼・小学校運営協議会）※オープンスクール実施	6/24（金）第２回ＣＳ委員会（大山幼稚園・大山小学校運営協議会） ※オープンスクール実施
7	6	第３回ＣＳ委員会 ～小グループによる熟議～ ・おおたま・オートム・フェスタの実施計画について（教職員・ＣＳ委員との合同会議） ・テーマ「保護者・地域住民の教育活動への協働・参画を増やすためには～」	7/5（火）第３回ＣＳ委員会 ～小グループによる熟議～ ・おおたま・オートム・フェスタの実施計画について（教職員・ＣＳ委員との合同会議）
7	28	おおたま学園全体会 ・おおたま・オートム・フェスタに向けた教職員・関係機関との合同会議 ※教職員と教育委員会職員の打合せのみ実施	
9	3	第４回ＣＳ委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施	
10	2	おおたま・オートム・フェスタ（小・中）運営・参画 【中止】 10/15（金）おおたま・オートム・フェスタ（幼）運営・参画 【中止】	10/1（土）おおたま・オートム・フェスタ（小・中）運営・参画 ※予備日10/2（日） 10/14（金）おおたま・オートム・フェスタ（幼）運営・参画
10	5	第５回ＣＳ委員会 ・全国学力・学習状況調査結果、ふくしま学力調査結果の概要説明 ～小グループによる熟議～ ・学力調査の結果を踏まえて、学校や家庭・地域でできることややってみたいこと等について ・第３回おおたまコミュニティ広場の内容について	10/4（火）第５回ＣＳ委員会 ・全国学力・学習状況調査結果、ふくしま学力調査結果の概要説明 ～小グループによる熟議～ ・第４回おおたまコミュニティ広場の内容について

			10/28（金）第5回CS委員会（玉井幼稚園・小学校運営協議会） ※オープンスクール実施
1 1	6	全国コミュニティ・スクール研究大会 in 三鷹 ※オンライン開催	
1 1	2 6	第6回CS委員会（大山幼稚園・小学校運営協議会） ※オープンスクール実施	11/25（金）第6回CS委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施
1 2	1 3	第7回CS委員会 ・講話「学校にかかわる 学校がわかる 学校がかかわる」 ～“対話”と“気づき”を通した学校関係者評価～ （講師 福島大学 特任教授 佐藤和彦氏） ・おおたまコミュニティ広場の内容について ～小グループによる熟議～ ・令和4年度各校・各園の学校運営方針（案）について	12/12（月）第7回CS委員会 ・おおたまコミュニティ広場の内容について ～小グループによる熟議～ ・令和5年度各校・各園の学校運営方針（案）について
1	1 3	第8回CS委員会 ・おおたまコミュニティ広場の最終確認 ～小グループによる熟議～ ・令和4年度CS委員会の運営について	1/12（木）第8回CS委員会 ・おおたまコミュニティ広場の最終確認 ～小グループによる熟議～ ・令和5年度CS委員会の運営について
		1～2月学校関係者評価実施 各校園委嘱の学校関係者評価委員が行う。 各校園毎に日時設定 ※年間の振り返り	1月～2月学校関係者評価実施 各校園委嘱の学校関係者評価委員が行う。各校・園毎に日時設定 ※年間の振り返り
2	2 6	第3回おおたまコミュニティ広場（第13回大玉村教育フォーラム） ・小中学生の発表 テーマ「大玉村をさらに元気にするために地域への恩返し」 ※小中学生の発表はYouTubeによる動画配信 3/6（日）まで	2/18（予定）第4回おおたまコミュニティ広場（第14回大玉村教育フォーラム） ・小中学生の発表 ・フリートーク（小グループ） ※小・中学生の発表についてはYouTubeによるライブ配信を行う。
3	9	第9回CS委員会 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針→承認 ・R3反省 ・R4計画（CS委員会の組織、運営等）	2/24（金）第9回CS委員会 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針 → 承認 ・R4反省 ・R5計画（CS委員会の組織、運営等）

- 6、10、11月実施の各校・園主体の学校運営協議会は、オープンスクール（5校時の授業参観）と一緒にを行う。そのため、午後から夕方にかけて開催する。（授業参観－事後研究会－学校運営協議会の午後半日の予定）
- CS委員の任期は2年のため、委員の改選は行わない。
- 熟議の内容については、次年度いろいろ意見をいただき決定したい。

③ 意見交換

（座長）質問や意見等あれば出していただきたいと思います。

（今野委員）基本方針の2つ目に「学校・家庭・地域が一体となった特色ある教育活動」とありますが、事務局としては具体的にどういう場面を捉えてこういうふうに「一体となった」と考えているのでしょうか。

(斎藤指導主事) 大玉村の特色として、地域の方々に学校教育に関わっていただいていることが挙げられます。少なからず保護者も学校の活動に参画しています。

家庭・地域が学校の教育活動に関心をさらに持ち、一緒になって取り組んでいくことで「特色ある教育活動」になっていくものと考えています。

(今野委員) 現状分析というか、今まで



の大玉村の実態はどうだったのかということと、これからさらにどういうふうになっていくのかについてお聞きしたいと思います。

(斎藤指導主事) 今まで地域の方々、保護者の方々に参画いただいて学校の教育活動は推進されてきました。今後は、それに加えて企業との連携も一つのポイントとなってくると考えられます。地域学校協働活動事業の中で、地域との連携を含めながら、地域や企業と一緒に学校教育活動をやっていければと考えています。

(今野委員) 個人的には、もっともっと家庭が関わりを持つようにするとまた違うのではないかと思います。そんなところも含めて、これからのCS委員会において学校・地域それぞれの立場で考えていかなければならないと改めて思いました。

(座長) 今年度の振り返りや次年度の案等についてでも結構ですのでご意見があればお願いします。校長先生から「経営方針について考える際に熟議が参考になる」という話を聞くことがありますので、次年度もなるべく熟議の時間をとって、地域と学校が連携できればと思います。

熟議の内容については新年度に決めるようになるのでしょうか。

(斎藤指導主事) 例年最後のCS委員会では具体的な内容までは提案していませんでした。今後、校長先生方やCS役員さんと相談しながら決めていきたいと思っています。

(3) 第3回おおたまコミュニティ広場(第13回大玉村教育フォーラム)アンケート結果から

(事務局 CSディレクター 佐藤 勇人)

『資料に基づき説明…主なものだけ下記に列挙』 ※CS日よりNo.30参照

【小・中学生の発表(提案)について<YouTube 配信>】

- 大山小学校5年生 「おしえてあげたい 大玉村のひみつ」
- 玉井小学校6年生 「私たちのふるさと大玉村～田植踊・文化・人々との関わりから～」
- 大玉中学校1・2年生 「大玉中学校の地域貢献の取組」

<アンケートから>

- 「とてもよい」76% ○「よい」22% ○「よくない」2%

- ・ 児童生徒がふるさとについて本気で学ぶことが本当に大切であり、素晴らしいことである。
- ・ 子どもたちの発表から、ふるさと大玉村への愛着心を強く感じた。
- ・ 大玉村を知ることが、さらに大玉村を発展させることにつながると思う。
- ・ 子どもなりの視点で長い時間をかけて練り上げた素晴らしい内容だった。発達段階に応じてレベルアップしていく内容で、素晴らしかった。

<全体的に見て>

- ・ 昨年度より視聴者の幅を拡げ、事前のPRも行ったのだが、アクセス数及びアンケートの回答数が前年を下回った。地域・保護者の方々に興味を持ってもらうには、CS委員会としてどのように工夫していったらいいのか検討する必要がある。

(座長) 質問や意見等あれば出していただきたいと思います。

(CS委員) ～特にない様子～

(4) 令和3度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】について

(事務局 指導主事 斎藤 一範)

※ 略 <資料に基づき説明…児童生徒の実態について>

(座 長) 質問や意見等あれば出してください。

(武田智委員) 中学校の持久走についてはどうなのでしょう。

(斎藤指導主事) 持久力測定については、持久走と20mシャトルランがあって、大玉中学校は20mシャトルランを選択していますので持久走はやっていません。

(座 長) 全体的に全国平均を上回っているようなので、その点はとてもよいと感じます。

それでは、これで協議を終了します。ご協力ありがとうございました。

6 今年度の総括

(CS委員会会長 伊藤 和弥)

- 皆さん、お疲れ様でした。今年も新型コロナウイルスの関係で予定した行事が変更になったり、もしくはできなかつたりしました。ただ、工夫をしながら前向きに取り組んでいる状態です。
- 今年は2年任期の1年目ということで、初めて委員を務めた方は、どういう取組をしているのかを知るだけで1年が終わってしまったのではないかと思います。来年度、今年の実験を生かしていろいろとご意見をいただければと思います。私もいろいろな資料を見せていただく中で、「こういうこともある」という新たな気づきがたくさんありました。皆さんもそのような形で感じたこともあると思います。矢吹副会長も話した通り、来年度も熟議に取り組んで、楽しく新たな気づきが得られるようにやっていきたいと思っています。ぜひご協力いただきたいと思います。今年度どうもありがとうございました。

7 その他

- 「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】資料」は回収する。

8 閉会の言葉

(CS委員会副会長 舘下 愛理)

皆さん1年間お疲れ様でした。これで令和3年度CS委員会を終わります。佐藤教育長さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

～大きな拍手～